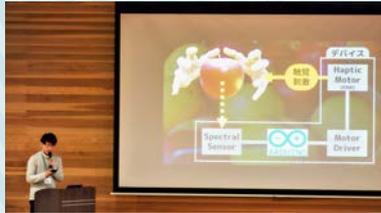


いわてキボウスター開拓塾第3期の最終報告会を開催しました

3月5日、第3期いわてキボウスター開拓塾(キボウスター)の最終報告会を岩手大学復興祈念銀河ホールで開催しました。第3期のプログラムでは、前期同様にマーケティングやファイナンスなどのビジネス知識の学習と並行し、ものづくり、まちづくり、農業、デザインなどの分野から迎えた地域リーダー(ゼミ長)の指導・助言のもと、学生一人一人が試行錯誤しながらビジネスプランの作成にチャレンジしました。

当日は約100人の参加者を前に選抜メンバーによるビジ



ネスプランの発表やブースでの成果物展示などが行われ、学生たちはこれまでの取り組みについて余すところなくPRすべく熱心なプレゼンテーションを展開しました。

今期のメンバーは大学生活によりやく慣れ始めた1~2年生が主体であり、当初は戸惑うことも多かったと思いますが、様々な人たちとの関わりの中で自らのアイデアを具現化していく体験を通して大きく成長しました。この経験を携え、彼らが今後も様々な可能性に挑んでいくことを期待しています。

参加学生の声

瀬川 愛里
岩手県立大学
宮古短期大学部2年



私はこれまで、忙しさや金銭面から多くのやりたいことやチャンスを逃してきたと思っています。だからこそ今回は本当にしたいことや挑戦の機会を手放したくない。そんな思いからキボウスターに入る

ことを決めました。以前から目指していた起業の明確化、強み、希望を見つけてくれたのはキボウスターです。行動しなければ得られない次のステージの入り口や、同じようにそれぞれが夢を持ち行動する、真剣な悩みを共有し、高め合える仲間との出会い、信念を貫き、成功している社会の先輩方、行動した者にしか与えられないミッションやヒント。赤木先生は言うていただきました。

「努力は報われることを体現してくれたね」と。

私は思います。この努力は私のためでもあり、応援してくれ、協力してくださる方々、一緒に各々の悩みを語り、考え合える仲間のためでもあったこと。これからもそれは変わりません。今回、最終報告会でアドバイザーボード賞を戴けたことをモチベーションに、皆さんを今後も驚かせ続けたいと思います。そして、そう感じられるキボウスターがこれからも増えていくことを私も楽しみにしています。

陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム2018を開催しました

3月3日、4日に陸前高田市米崎町の陸前高田グローバルキャンパスで、「陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム2018」を開催しました。



開会に際し、岩瀬岩手大学長の挨拶、戸羽陸前高田市長からのご祝辞をいただきました。続いて、陸前高田市で活動する大学生による取り組みや市内団体による地域を盛り上げるための取り組み、また、大学関係者による陸前高田市をフィールドにした研究活動、コミュニティ形成を支援する活動などについて発表が行われました。

4日は大学関係者による陸前高田市での教育活動に関する発表のほか、地元の中高校生及び陸前高田市で活動する大学生



が、気仙地区の復興に向けた取り組みについて発表し、気仙地区の将来について発表者と参加者が意見を交わすセッション、陸前高田市の園芸農業をテーマにしたパネ

ルディスカッションが行われました。

2日間で延べ220名が参加し、市民の皆さまにも多数ご参加いただきました。参加者からは「様々な分野について報告を聞くことができ、今後の参考になった」、「学生達の被災地へのまっすぐな思いにふれ、有り難く思った」との声をいただきました。

様々な発表やご意見を聞き、このような機会を継続して設けていくことの大切さを改めて認識しました。

参加高等教育機関の取り組み状況 ～盛岡大学～

盛岡大学は、文学部と栄養科学部の2学部5学科からなり、キリスト教精神を基盤とする建学の精神のもと、地域社会に貢献する人材育成をめざしています。キーワードは、「地域」「文化」「教育」「栄養と健康」。盛岡大学は、これまで地域の文化や教育に関する学びを充実させ、地域で活躍できる有為な人材の育成に取り組む、地域のさまざまな分野に対して、その担い手を輩出してきました。そして、これからも地域社会の幸に貢献する人を育て続けていきます。

独自のキャリアサポートプログラム

入学時から4年生の前期までキャリア形成サポートプログラ

ムに沿って、様々な講座・セミナーを開催しています。1年次文学部は教養科目として「キャリアデザイン学Ⅰ・Ⅱ」を、栄養科学部では「栄養学概説」を開講し、2年次では「就職基礎講座、就職準備講座」を、3年次では「就職実地講座、就職直前講座」を、4年次前期では「就職特別講座」を、全学年に対しては「公務員講座」を実施しています。この中で、県内就職率の向上を目指して、県内の自治体及び企業による説明会に学生の積極的な参加を促しておりますが、今後さらに、就職センターを窓口とした大学と県内の自治体との交流に積極的に取り組むよう計画しております。

事業所見学バスツアーについて

1～2月に行われた3つの事業所見学バスツアーについて紹介します。

二戸管内事業所見学バスツアー

岩手大学では、1月11日に、岩手県、二戸市と連携し、ふるさといわて創造協議会と共催で「一戸町の魅力発見ツアー」を実施しました。このツアーは岩手県北、二戸エリアの地域と企業を学生に知ってもらう取り組みとして行われたもので、岩手大学生6名、岩手県立大学生2名が参加しました。当日は社会福祉法人カノンの園、一戸町役場、株式会社岩手芝浦電子の3事業所を見学した他、世界遺産登録運動を推進している遺跡の一つ御所野縄文博物館も見学しながら仕事の楽しさ、やりがい、苦労したことなどについて事業所の方々と意見交換を行い、学生は地元企業への理解を深めました。

参加者からは「このツアーがなければ知ることができなかった事業所ばかりで大変参考になった。」「様々な分野の事業所を見学できたのは、自分の今後の進路を考えるうえでとても役に立った。また、一戸、二戸は今回初めて行ったが、行かなければわからないような魅力に気付くことができた。」といった感想が寄せられました。

製造業企業見学バスツアー

岩手県立大学総合政策学部では、自治体(岩手県・北上市)と協働し、1月13日、2月9日にリコーインダストリアルソリュー



ションズ株式会社等、計5社の製造業企業を対象とした県内事業所見学会を実施しました。自分たちの地元でどのような企業があり、どのような事業を行っているのかを学生に知ってもら

機会として企画したもので同学部の学生30名が参加しました。特に今回の見学会では、製造業における文系職種の役割について学ぶ機会となりました。県内のもづくりを支える現場で文系出身の学生が活躍できる可能性について積極的な質疑が行われ、参加学生からは、「BtoBの製造業に対して今までとは違うイメージを持つことができた」「工場の現場における文系出身者の役割を学ぶことができた」といった感想や、グローバル規模の企業においては語学力が求められることに対し、「今のうちから身につけていきたい」といった声が挙がりました。

技術に焦点を当てた企業見学会

2月14日及び16日に岩手大学の理工系学生を主な対象とした「技術に焦点を当てた企業見学会」が開催され18名の学生が参加しました。この見学会はいわて半導体関連産業集積促進協議会、奥州市、一関市との共催により実施されたもので、昨年度に続いての開催となりました。



14日の一関市内のコースでは電子デバイス製造企業など2社、16日の奥州市内のコースでは情報通信機器製造企業など3社を訪問し、参加学生は工場見学や岩手大学工学部OBとの意見交換を通してものづくり現場の実際の雰囲気を感じました。実施後のアンケートでは「地元でこのような企業があるとは知らなかったのが、貴重な機会になった。」「もともと県内の企業に就職しようと考えていたが、より一層県内の就職を考えるようになった。」等の回答も見られ、学生が地域企業の魅力に気づき、地元就職への意識を深める体験となりました。

インターンシップについて

春季インターンシップの動向

全国的には、春休みにインターンシップを行う学生が夏休みより多くなっている昨今ですが、岩手ではまだ「インターンシップは夏休みにやるもの」と思っている学生が多く、今年も参加学生は少ない状況です。また、岩手県内では春休みに行われる実践型インターンシップも年々プログラムが充実していますが、首都圏をはじめとする岩手県外の学生が参加する割合が高いのが実情です。

春季インターンシップを計画している岩手県内の企業も増えているため、少しでも多くの学生に春休みを活用して、生き生き

と働く人と一緒にリアルな体験をすることによって、新たな学年の生活がより充実したものになるようなインターンシップを経験してほしいと思います。

インターンシップコーディネーター人材研修を実施します

いわてらしい形として定着しつつある「地域志向型インターンシップ」。さらなる充実と発展を目指して、インターンシップを各地域で担っているコーディネーターのみなさんに集まっていたいただき、ざっくばらんにディスカッションやワークショップを行う人材研修会を実施します。この夏、より良い地域志向型インターンシップが展開されることをご期待ください。